

室内空気質と住宅満足度による主観的幸福感に関する研究

その3 住宅満足度による主観的幸福感への関連

A Study of Subjective Well-Being Based on Indoor Air Quality and Housing Satisfaction Part 3: Association between Housing Satisfaction and Subjective Well-Being

○山中みなみ（会員）¹⁾、岩山遼太郎（会員）^{1,3)}、山崎佑基（会員）¹⁾

鈴木規道（会員）²⁾、嶋谷圭一（会員）²⁾、高口倅暉（会員）²⁾、中山誠健（会員）²⁾

1) 積水ハウス（株）総合住宅研究所、2) 千葉大学予防医学センター、3) 千葉大学大学院医学薬学府

○Minami YAMANAKA ¹⁾, Ryotaro IWAYAMA ^{1,3)}, Yuki YAMAZAKI ¹⁾

Norimichi SUZUKI ²⁾, Keiichi SHIMATANI ²⁾, Kohki TAKAGUCHI ²⁾, Yoshitake NAKAYAMA ²⁾

1) Comprehensive Housing R&D Institute, Sekisui house, Ltd.,

2) Center for Preventive Medical Sciences, Chiba University,

3) Graduate School of Medical and Pharmaceutical Sciences, Chiba University

Abstract: In this report, we analyzed whether overall housing satisfaction is related to subjective well-being, which was not found to be related to indoor air quality in the previous report. To evaluate the impact of overall housing satisfaction, we analyzed the overall satisfaction with the neighborhood and community environment and the satisfaction with human relationships together. Statistical adjustments were made for the frequency and number of interactions with family members and acquaintances living in the same house. The results showed that relationship satisfaction was most significantly related to subjective well-being, followed by overall housing satisfaction. Indoor air quality may indirectly contribute to subjective well-being. The results support the reports of previous studies and are unique to this study in that only detached (owner-occupied) homes were included in the study.

キーワード：疫学調査、住宅満足度、主観的幸福感

1. 緒言

前々報では、4つの主要な室内環境の要素（温熱快適性、室内空気質、音響快適性、光視環境）の中で¹⁾、換気による室内空気質の改善が住宅満足度の向上にも影響していることが示唆された。

前報では、室内空気質の満足度が、総合的な住宅満足度へは関連しているが、主観的幸福感には関連していないことが示唆された。先行研究では、首都圏や高齢者など地域や対象者が限定されているものの、住宅満足度が主観的幸福感を向上させることを報告している^{2,3)}。

近年、主観的幸福感への注目度がOECDを含む主要な国々で高まっており、政策への反映が求められている⁴⁾。本報では、日本全国の持家の居住者を対象に、総合的な住宅満足度が主観的幸福感に関連しているのかについて、人間関係や近隣環境

の満足度も考慮した上で実施した解析結果について報告する。

2. 方法

前報と同様に「健康と住まいに関する全国調査（J-hohec）」のWave2、Wave3のデータを合わせて、同様の除外条件（戸建住宅以外、性別未回答、シックハウスまたは化学物質過敏症の既往歴有）で解析した。住宅および近隣環境の満足度は、5段階（とても不満～とても満足）で確認した。主観的幸福感および人間関係の満足度は、10点満点（0点～10点）の評価で確認した。

統計解析では、主観的幸福感を従属変数とし、 $p<0.05$ を統計的有意とした重回帰分析により、回帰係数（ β ）を算出した。独立変数には、住宅、人間関係、近隣環境のそれぞれの満足度の他、個人

属性（性別、年齢、世帯年収、教育年数）、社会関係（同居の家族、知人・友人との交流頻度、交流人数）を用いて、強制投入法で解析した。多重共線性は VIF (2 未満) で確認した。解析には、SPSS version 27.0 for Windows (SPSS Inc.) を用いた。

3. 結果

重回帰分析の結果を Table 1 に示す。主観的幸福感に対して、総合的な住宅満足度 ($\beta=0.174$)、人間関係の満足度 ($\beta=0.558$)、近隣環境の満足度 ($\beta=0.098$) がすべて有意に関連した。

4. 考察

本解析結果では、人間関係の満足度が最も主観的幸福感に対する影響が大きく、次いで、総合的な住宅満足度が関連した。人間関係が最も影響している点は、先行研究と一致しているが、住宅と近隣環境の満足度の優劣については、調査により異なっている^{2,3}。賃貸住宅の場合、持家と比較し、立地を重要視する可能性が高いことが推測されるため、居住形態により影響度が異なる可能性がある。

本研究により、持家の総合的な住宅満足度を高めることで、主観的幸福感も高められる可能性が示唆された。ただし、総合的な住宅満足度、人間関係の満足度、近隣環境の満足度は、主観的幸福感を構成する因子であると同時に、相互に影響し合っている可能性がある。これらの相互影響まで含めた構造については、更なる検討が必要である。

5. まとめ

本研究では、その 1 からその 3 にかけて、その 1: 換気による室内空気質の満足度への影響、その 2: 室内空気質による住宅満足度への影響、その 3: 住宅満足度による主観的幸福感への影響について、段階的に解析を試みた。その結果、換気による室内空気質の改善は、主観的幸福感とは直接的な関連は見られなかったものの、間接的に主観的幸福感を高める可能性が示唆された。

今後は、これらをより統合的に考慮した解析を進め、室内環境の改善による主観的幸福感の向上可能性について追究する所存である。

6. 文献

1. Fan Zhang etc, Editorial: Effects of indoor environmental quality on human performance and productivity, *Frontiers in Built Environment*, 2022-11
2. 宗 健 他、住まいが主観的幸福感に与える影響、都市住宅学 103 号、2018 年
3. David R. Phillips etc, The impacts of dwelling conditions on older persons' psychological well-being in Hong Kong: the mediating role of residential satisfaction, *Social Science & Medicine*, 2005-6
4. 内閣府、幸福度研究について、https://www.esri.cao.go.jp/jp/esri/prj/current_research/shakai_shihyo/about/about.html、アクセス日時：2024 年 9 月 9 日

Table 1. Multiple regression analysis of the relationship between satisfaction with housing, relationships, and neighborhood environment on subjective well-being ($p<0.05$)^a

<i>n</i> =6,964	Subjective Well-Being		
	β	<i>p</i>	B-95%CL
Housing Total Satisfaction	0.174	<0.001	0.39 - 0.49
Satisfaction with relationships	0.558	<0.001	0.45 - 0.48
Satisfaction with neighborhood environment	0.098	<0.001	0.18 0.28

^a Adjustment Variables : gender, age, household income, number of years of education, family members living together (spouse, children, father, mother, father-in-law, mother-in-law), frequency of interaction with acquaintances/friends, number of people you interact with